令和２年度

会館だより

第３号

同期会開催

岩手県学生会館

令和２年 12 月 11 日発行

ついに、同期会開催

今年の新入寮生は全員で 20 名ですが、現在は 13 名が入寮しています。歓迎会もなく、上京すらできない人もいる中、一部の方からせめて同期の方々と知り合いになりたいという要望があり、遅ればせながら同期会を呼びかけました。現在いる人全員ではありませんでしたが、9 名の方が集まり、呼びかけ人代表の盛合君、千田君両名の挨拶の後お互いに自己紹介などをして過ごしました。

いつもよりは寂しい感じがする同期会でしたが、来年度、コロナが終息したら改めて全員揃ったところで楽しい会を再度開催したらよいのではないかと思います。

それでは現在の１年生の皆さんがどんな暮らしをしているのか、前号に引き続き紹介してもらいます。

入寮してからの日々

櫻井唯晶

私が入寮したのは 6 月でした。東京での生活やコロナウイルスなど不安なことが多くありましたが、幸運にも入寮後すぐに、先輩や同級生と打ち解けられました。入寮二日後頃に、先輩から寮生活について様々なことを教えて頂きました。今一番思い出に残っているのは先輩から魚のさばき方を習ったことです。一人暮らしでできることが増え、寮での生活が充実してきた実感がありました。また、隣の部屋の同級生とは偶然にも、学校は違えど同じ校舎で授業を受けていることを知り、親近感がわき、すぐに仲良くなれました。最近は彼の自転車を一緒に組み立てました。自転車のパーツの一部が曲がっているなど、様々な問題がありましたが何とか組み立てることができました。また、彼はパソコンに詳しく、自作パソコンを組んでいるそうで、よく彼にパソコン関係のトラブルを相談しています。今度、私もパソコンを組もうと考えているので彼に相談して組もうと思っています。

≪今思うこと≫

東京での一人暮らしに慣れることができるか、寮の人たちとうまく生活できるか心配でしたが、今年入寮した人たちとの顔合わせを行えたのでどのような人たちと生活しているのかお互いに確認できました。そのおかげで入寮時よりも多くの人と交流ができ、楽しく生活できています。特に食事の時間に一人寂しく食べることがなくなったので一緒に企画してくれた方々に感謝しています。い

つか寮の方々全員との顔合わせができたらと思っています。今年の新入寮者の歓迎会はありませんでしたが、もし１年後・２年後に私にできることがあれば寮の力になれたらと思っています。また、もう少し先ですが、新しく入寮した方との交流も楽しみにしています。まだコロナウイルスが落ち着いておらず大変な時期ですが寮の仲間たちと健康に生活できるよう心がけていきたいです。

阿部　仁美

1.入寮してからの日々

コロナの影響で大学へ通った日数が片手で足りる程度で、バイトの為だけに外出している状況です。趣味や読書に明け暮れておりますが、生活リズムが徐々に狂い始めているので元に戻そうと四苦八苦しているところです。

バイト先で友人ができ、来春から合唱を始めたいと意気投合しました。その為にも私生活をきちんとしたリズムにすることが必要だと考えています。音楽活動も飛沫感染の観点から厳しい状況には晒されておりますが、好転していけばと思います。

2.今思うこと

年末年始も実家に帰ることが出来ず寮にこもりきりになりますので、早く実家に帰りたいなあと思っています。家族だけでなく地元の友人にも会いたいと日々感じています。ここまで大学に通う日数が少ないのであれば、早い段階で地元に帰省して実家から授業に参加した方が良かったのではないかと若干の後悔をしています。

人と関わり続けることに強いストレスを覚えるようで、出先などは良いのですが完全に私生活の部分で人と出会うのが苦手なようです。これは寮生活を通して初めて知ったことです。他の寮生の皆さんと関われたり、関われなかったりと不規則になってしまっておりますが、また顔を合わせて話せるようになればと思い、回復に向けて努力しています。

3.その他（自由題）

寮の玄関のクリスマスの装飾が好きです。実家でツリーを置いて楽しんだのはかなり昔の話なので、久しぶりだなと思うと共に「ああクリスマスだな」と実感出来て嬉しいです。実家はクリスチャンではありませんが、キリスト教の曲を教会で歌わせていただく機会も多かったのでクリスマスは馴染み深い日です。一人暮らしですと季節に合わせて装飾などはあまりしませんから、有難いなと感じます。クリスマスの後は年越しが待ち、師走の名の通り忙しい日々であると思います。お身体を労わってゆっくり休んでください。

今年は１年生の女子の方々が新趣向でセットしてくれました。

小野寺　健

何につけても、今年は新型コロナに触れない訳には行かない。私が入寮する時期も本来ならば四月一日からであったが、五月初旬になってしまった。さらにその後三週間ほどで一度実家に戻った。あの時は丁度第一波が収束し、このまま流行が終わるのではという淡い期待が社会に蔓延していた頃だった。実家に戻った後、全国での感染者が急増し、東京にある学生会館に戻ることは、憚られざるを得ないような状況になり、結局、終戦記念日の三日後にようやく再び寮に戻って来られた。

寮での生活は、これと言って文句が無い。ただ一度、入浴ができる午後五時以降に浴場に行ったとき、浴槽が冷たく水が全く暖かくない風呂に浸かったことぐらいである。或いは行くのが早すぎたのかもしれないが……。平日はと言えば、自室にこもりオンライン上での授業を受け、時間が過ぎていく毎日であり、ややもすれば今日が何日なのかさえ忘れそうになってしまう。今一つの疑問な

のが、大学の授業の多くは恐らくオンライン上に移っているが、そこで使われるソフトが「オンライン『会議』システム」であるということである。つまりは大学の授業などは本来の用途ではないのではないだろうか。

しばらく住んで分かったことは、この要町という地域はかなり絶妙な場所であるということである。繁華街であり、乗り換えが多い池袋までは確かに徒歩圏内ではある。しかし道中は緩やかな坂道であり急いでいる時には徒歩は避けたい。一方地下鉄では一駅で着くが、二百円近い金額が掛かる。さらにこういった地域であるためか「閑静」な住宅街となっており、周りに店が少ない。案外住みやすいようでいて、なかなか難儀な立地ではないだろうか。

今年に限っては、今一つ大学生になったという実感が湧かない、そのためか大学生であるという自覚もそんなに無い。恐らくそういった気持ちになった人は私を含め、非常に多いのではないか。自分が何者であるか（尤もこの寮にいる限り、岩手県民なのではあるが）、アイデンティティや所属感の問題である。

及川　彩蓮

私は 5 月の前半に入寮し、半年が経ちました。6 月は学校はオンライン授業、外出は必要な時にするくらいでほとんど毎日引きこもりの状態でした。友達にも会えず、会話をする相手がいなかったのでとても寂しく感じましたが、7 月からは週に一回学校に登校する日が設けられたことにより、外に出る回数が少しずつ増えました。そして、友達と会話をすることで前よりすごく充実さを感じられました。

8 月の夏休みは地元に帰る事ができず残念でしたが、こちらでの生活にも慣れてきたところだったので遊びに行ったり、買い物をしたりなど自分なりに考えて行動し充実した夏休みを送る事ができたと思います。

そしてあっという間に 9 月と 10 月が過ぎ、もう 12 月になったと考えるととても早く感じます。1 年経とうとしている今、前よりも圧倒的に外出も増え、学校もほとんど毎日行くようになり嬉しい半面いつになったら終息するのか心配でもあります。

今年はコロナの影響で想像していた生活とは違う環境になり、自由が制限されましたがその限られた生活の中でどう楽しむのかを考える時間になったのでいい一年になったと思います。

今後も気をつけて充実した学生生活を送りたいと思います。

今年は下草も大胆にカットしました。4 月にまた成長し始めるでしょう。

一足先に退寮した先輩から

3 月を待たずに寮を離れた方々がいます。ほぼ 4 年になる寮生活を振り返ってもらいました。

退寮一か月たって思うこと

林　大晏

私は約 4 年間岩手県学生会館にお世話になりました。退館から一か月経ち、今現在思うことを書こうと思います。在寮中の学生や、数ヶ月後に退寮するであろう同期の、今後の参考になれば幸いです。

1 人暮らしを始めて一番強く感じるのは館長、寮母さん、樺沢さん、グリーンハウスの方々、館内の掃除に来てくださる方々への感謝です。会館から離れ一人で生活する中で、以前までやっていなかったこと（自炊やライフラインの手続き、荷物の受け取り、ゴミ出しなど）をしている時、毎度、それまでの私の当たり前は多くの方々に支えられていたことを実感します。1 年ほど前、結構大きめの台風が上陸した日、私はこんな時でも時間通り食

堂で夜ご飯が準備されていたことに驚き、食堂の方にその旨を伝えました。すると「君たちがごはん食べられなくなるだろ？」と仰っていて、また心動かされたのを覚えています。在寮中、月数回程度のミニキッチンで、ある程度の自炊テクニックを培ったつもりでいましたが、引っ越して 3 日も経てば献立は底をつきその自信は挫かれました。寮では本当に全部施してもらっていたのだなと思いますし、それまで、1 人暮らしに大丈夫だろうと高をくくっていた自分が恥ずかしくなります。

在寮中の自室の清潔さは館内の中でも特別自信があり、私の部屋に入った他の寮生はだいたい「やっぱりこの部屋きれいだな」など呟いて自室に戻ります。少しして私が訪れると部屋を整理した後がところどころに垣間見えることがあり、少し可笑しく思ったこともありました。今振り返ると常に誰かに見られている、不自由ともとれるあの感じは、私が比較的自制して生活できた理由の一つであった気もします。寮母さんの点検もなくなり、友人たちの出入りがめっきり減った現在は、部屋の散らかり具合や生活習慣は少しずつ悪化しているようにも思います。本当に学生会館は健康に生活できる恵まれた環境だったんだなあと実感じます。

また、会館の友人たちへも感謝しています。4 年間で私が下した決断や、学内外で築いた人間関係の多くは、その裏で思慮深い彼等に相談することで支えてもらっていました。もともと私は考えるよりまず行動に起こすような性格で、他人に迷惑をかけることも多くありました。しかし、数年間助言をもらったり、話をしながら彼等の価値観に触れたりして過ごしたおかげで、少なからず人間として精神的に成長できたのではないかと思います。卒業を数か月後に控えているためか、この４年間について考え直す機会が増えました。特に人間関係の面では、会館の友人との関係は深く、学校での人との付き合いはどうしても浅く感じてしまうことさえあります。そのくらいお世話になった友人たちでした。在寮中の学生のみなさんは今一緒に過ごしている館内の友人を大切にしてください。

最後にお世話になった皆様、約 4 年間本当にお世話になりました。

ありがとうございました。

どうかいつまでもお元気で。

自治会長、お疲れさまでした。

お元気で、ありがとうございました。

懺悔≒アドバイス

村上智宏

この文章を書く立場になるまでに世界がここまで変わってしまうとは予想しなかった。正直うんざりだがコロナの影響とともにある自身の提案と感情をここに記したいと思う。

就職活動は影響をもろに受け、私の元々志望していた地元メディアは狭き門が針の穴以下になった。某企業は最終面接までいき結局今年度の採用をアナウンサーのみにされた。結果だけ見ると悲惨に見えるが私はそうは思わない。説明会も試験も遅れる中で自分が何をしたいのかだけでなく、冷酷に、その業界は今の価値と将来を６０歳まで持ちうるのか？人間として社会的動物としてのはざまで限りなく必要とされうる仕事・業種は何かを再考する中で、私が今なんとなく内定を得た企業は案外間違っていないよう

だ。就活に夢や理想を求めるのは当然だ。しかし現実は学歴の見えない天井や社会からの存在意義の変化でも生きながらえる社会人と内定先を目指さねばならない。高校時代サッカーの選抜で全国の才能ある同学年に絶望したように、身の程を社会は確かに突き付けてくる。何もない自分ができることは変化を情報の中で見抜き必要とされる知識をもとに立ち回ることだと感じる。私からの１つ目の提案は社会で求められる知識の勉学を怠らぬこと。学校教育と社会には似て非なるニーズとスキルがある。スポーツや芸事と違い勉学は自頭の差を努力でカバーしきれる可能性がある。パーティーも楽しいだろうがどうか寝る前の１時間だけでも勉強しとけば、それが思わぬ救いになると約束したい。

私は大学から登山とロードサイクルを始めた。入学時渋谷のクラブで新歓をしたサッカーサークルに幻滅し、スパイクを脱いだ自身の決断を誇りに思っている。１８歳で冷静にサッカーに求めたモノと自身の社会性を見抜けた。髪をブリーチしクラブで遊び酒におぼれるのを批判する気はない。大学生の間しか楽しめない特権だろうし、今も興味は全くないがもし私に素質があったら経験したかった。だが山で出会った名も知らないおじさんたちと三俣山荘でビール片手に話した 1 時間はそれらの何倍も濃い人生経験だったと思う。世界が広がり新たな価値観を知ったことで、社会人と何者でもない存在の境を発見した気分であった。２つ目の提案は４年間のうちは思いついた全てに挑戦する事。社会人は想像以上に自由の概念が狭いようだ。２２歳ですでに感じつつある。私は最後の自由気ままな 1 年がコロナで足元を掬われた。だがこれも人生だと受け入れている。私は残り 5 か月弱を全力で抗う覚悟だ。下級生には全力でこの１年の憂さ晴らしを来年してほしい。

この哀れな男の物語で 1 人でも和んだら幸いです。最後に１つだけ言わせて頂きたい。
私は最後の大学生活を全力で楽しむ。そして来年の入社式に臨むとき、コロナに笑顔で中指を立て社会人大学の一歩目を踏み出してやろうと思う。

イヨ！肉体派
祈　百名山踏破
お元気で

会館からの連絡

◎冬季休業は 12 月 27 日(日)～1 月 6 日(水)

今年の休業は上記のとおりです。コロナの感染状況によって帰省・移動できるかどうか分かりませんが、とりあえず予定どおりとしておきたいと思います。

なお毎年訴えておりますが、居室の整理整頓を心掛け、清潔な部屋で新年を迎えるようにしてください。年末のゴミの回収日は燃えるゴミが 30 日(水)、ビンカン類は 24 日(木)ですのでご協力ください。

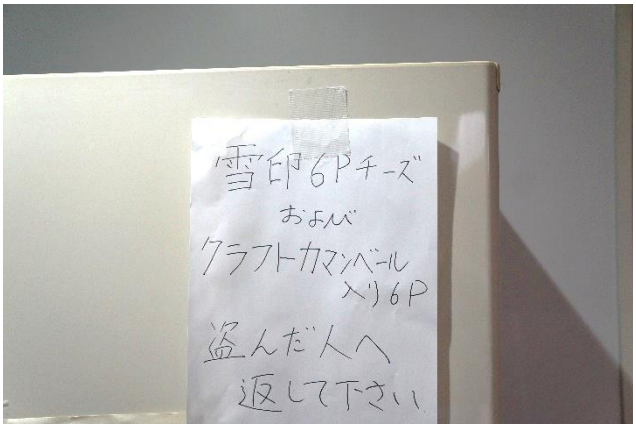
◎食堂のゴミ箱の使用について

この頃食堂内のゴミ箱に明らかに居室のものと思われる物が捨てられています。発泡酒の空き缶、燃えるゴミ等です。「居室で使用したものは裏の倉庫へ」という張り紙が目の前にあるにもかかわらず捨ててあります。よくニュースで若者が野外でバーベキューをしてゴミをその辺に捨てていくというのを見ますが、そういう輩と同根の未熟さ丸出し人間です。早く自分の行為の是非に気づいてほしいものです。

◎皆で監視しよう冷蔵庫

ミニキッチンに置いてある共用の冷蔵庫。使用するときはマナーを守って欲しいものです。消費期限が過ぎたものを放置、大きな一升瓶をのさばらせる等々。皆で使っているということを強く自覚してほしいものです。

また、誠に遺憾ながら勝手に人のものを失敬する輩もおります。慙愧に堪えません。監視カメラの設置を余儀なくされる前に是非、良識を持って行動するよう強く望みます。



◎部屋で修理が必要なところはありませんか？

先日事務室のドアを開けたら、天井から水滴がポタリ、ポタリ。否、タツ、タツと。慌てて水受けになるものを準備し、原因究明に乗り出しました。

一人では解明できずに管理会社の方に来館していただき、半日がかりでようやく原因が 4 階の居室の水漏れであることが分かりました。ご協力をいただいた事務室の上の 2 階、3 階、4 階の学生の皆さんありがとうございました。

実は先日もある部屋の水栓も交換いたしましたが、色々と耐用年数が過ぎたり、損傷が生じたりするものがみられるようになりました。各居室、共用部（毎月 1 回は業者の方が点検していますが）でもし損傷等気が付いたことがあったらならば事務室までご一報よろしくお願いいたします。

◎お米、水の配布を再び

前回大好評だったお米と水と？の配給を行います。前回手に入れることのできなかった方のために今回は予告してから行います。ささやかなクリスマスプレゼントになればと…。

- 時　　12 月 18 日（金）11：30
- 場所　　ロビー
- 方法　　集まった人数で山分け
  ただし、不足した場合は抽選
- その他　　どうしても都合のつかない方は事前に連絡してください。人数に入れます。

◎食堂から

皆さんもよく承知しているとおり、会館の食事は朝食夕食とも 2 種類のメニューから選ぶようになっていますが、3 日前までに記入しない人が結構いるようです。仕入れの準備に大変支障をきたしてしまいます。是非、協力してください。

会館の東西南北

北

西（富士山）

東（スカイツリー・池袋方面）

南（新宿方面）

≪編集後記≫

日常の生活の様子をお寄せくださいました新入寮生の皆さん、ありがとうございました。

さて、今年も暮れようとしていますが、誰にとっても大変な 1 年、学生の皆さんにとっても天から降ってきた異様な世界だったことでしょう。特にも新入寮生は合格・上京という最大の喜びを得ておきながら、いざというときに全部とは言わないまでも大事なところが欠けてしまいました。経験を糧にといいますが、無は糧にはならない。喪失感の経験だけを抗体として残すしかありません。せめて、「ま、それも人生さ」と、前を向いていくしかないでしょう。ケセラセラも大事かも？

来年は「日常」のありがたさが分かる一年になりますように。よいお年を。

令和二年十二月十一日発行
編集並びに発行元　　公益財団法人岩手県学生援護会
岩手県学生会館
同　学生自治会
住　　所　東京都豊島区要町二丁目５番５号
ｔｅｌ　　０３　（３９７２）　４７８３
ｆａｘ　　０３　（６６７６）　４４７１